Let's リフォーム

西田恭子

# 見直される畳敷きの落ち着き・汎用性

## ＊…和室の復活

和室を撤去し、リビングを広くするリフォームがどんどん行われてきた。確かに広々リビングは気持ちが良いが、和室の持つ意味が検討されないまま、和室のない家づくりになっているのではないだろうか。

家を探している若い夫婦の会話に、「和室がないからこの物件はダメだ」という声があった。赤ちゃんと川の字で寝ている若夫婦にとって、畳の部屋は必須で、家族三人がごろごろと寝転がるのが楽しいのだと言う。彼らは新婚時代にせっかく買ったベッドも手放してしまった。

また親世代は実家の役割として、独立した子供たちが集いやすい家づくりを模索し、その一つが泊まれる部屋の確保となる。未確定人数に対応でき、なおかつ思わず泊まりたくなる快適さが必要で、昔ながらの和室からおしゃれな和室へのリフォームをされた人もいる。

アーチの天井や間接照明で、隠れ家的な雰囲気を演出

LDKに隣接するモダンな和室は引き出し式収納を設けて一新

玄関の土間から直接上がれる和室に改装

書斎づくりを和室でする人も出てきた。「立って半畳、寝て一畳」という言葉のように、畳の数で部屋の大きさを考える習慣がある世代は、三畳でも確保できれば隠れ家的、自分空間が実現できると思っている。同じ三畳を机とイスと本棚でいっぱいにしてしまうのか、座卓で一人ごろりと寝転がれる部屋とするのか、熟慮して決めたいものだ。

客間の和室は納戸となりがちで、使われる和室づくりにするには動線を含め、少し技が必要のようだ。畳はヘリのないふちナシ畳を使い、あえてモダンな菱型のクロスを使うとか、また和室用の照明器具を使わずに、間接照明やダウンライトにする、障子ではなく和紙のブラインドにするなど新しい和室作りが始まっている。

畳の寝室や書斎ばかりでなく、リビングの延長で扉のない畳コーナー、玄関土間を復活させ直接上がる和室と、日本の伝統空間を現代にマッチさせて、新しい形の和室が生まれてきている。たたみ暖房や段差を生かした床下収納も魅力的だ。

畳ならではのくつろぎ感や落ち着きが、老若男女を問わず「畳のある家はいいなあ」という声を引き出しているようだ。

（三井のリフォーム 住生活研究所所長、1級建築士）